

ニッポンの伝統文化を守る

畳は、日本の伝統文化であり、い産業は約510年のイグサ栽培の歴史を有する八代の基幹産業ですが、価格低迷や栽培面積の減少などの影響により、イグサ生産に必要な「いぐさカセット式移植機」と「いぐさ苗処理機」の製造が平成10年に中止されました。

機械の老朽化が進むなか、生産者からの再生産の熱い要望を受け、熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会や県、本市などで、平成30年3月に株式会社クボタを訪問し再生産の要望を行いました。また、農林水産省への機械導入支援の要望活動などを経て、22年ぶりに生産されました。

今後はい産業や産地を守るため、安心して生産を続けていけるような環境づくりへの支援、PR活動などを行っていきます。



11月28日
JAやつしろ中央い製品集荷所で同機の納品完了に伴い、お披露目式が行われました。

イグサ文化を後生に



小嶋 新吾 さん
(千丁町)

生産者の希望の光

平成10年に製造が中止されてから、約20年間同じ移植機を修理しながら定植していましたが、今年からは安心して安定生産できるので、とてもありがたいです。

昨年までは約4割の人が手植えで行っていましたが、機械植えの生産者が増えることによって、労働力不足の解消や負担が軽減されるのでイグサ文化が途切れることなく続いていくのではないかと思います。

また、今回導入された新型いぐさカセット式移植機は、高出力、低燃費なディーゼルが搭載されていて、ボディも大きく、植え付けるときに安定し扱いやすいので生産性が向上するのではないかと期待しています。

イグサは日本の文化、そして八代市は全国一のイグサ生産地なので長く続くことを願っています。